

スポーツ通訳「いろは」学ぶ

札幌 道内150人参加 初の研修



通訳の心得などについて熊谷ユリヤ教授(右)の指導を受ける公式通訳者ら

来年2月に開かれる冬季アジア札幌大会の公式通訳者に対する研修会が30日、札幌市中央区で行われた。道内各地から集まった通訳者が国際スポーツ大会におけるサポートの仕方を学んだ。

(村田亮)



2017
冬季アジア
札幌大会

大会組織委員会(事務局・札幌市)から通訳業務の委託を受けたイー・シー・プロ(札幌)が初めて開いた。冬季アジア札幌大会の公式通訳者には、国内外で年間10件以上の通訳の実績を持つ人や、今大会に向けた選抜試験を通過した人などと合わせて約230人が選ばれた。英語

のほか、中国語、韓国語、ロシア語を担う研修会には、選抜試験をパスした約150人が参加した。札幌大の熊谷ユリヤ教授(異文化コミュニケーション)が講師を務め、「国際大会では予期されない事態もあり、事前準備の段階から幅広い学習が欠かせない」と強調。通訳時のメモの取り方や自主学習の方法を説明した。

研修会は本番まであと4回開催する予定で、札幌市東区の会社員木村竜太郎さん(27)は「スポーツ用語には詳しくないので、これから必死に勉強しないと」と気を引き締めていた。